## ♦♦♦♦♦♦♦♦♦♦♦ « コラム » ♦♦♦♦♦♦♦♦

## - 喫煙対策-

産業保健推進センター

岩手日報(11月1日)を見ていたところ、

「禁煙やる気 本県2位 でも…成功率37番目」

という見出しに、目が留まりました。

以下に記事をかいつまんでご紹介すると、「9・10月に全国9400人(各都道府県男女200人)を対象に、製薬会社ファイザーが、 アンケート方式で調査を実施、5824人から回答を得た。 その結果、消費税増税に伴いたばこが値上げされた場合に禁煙しようと思う人は、 全体で44.1%、本県は119人中67人(56.3%)で、全国で2番目に高かった。直近1年間 の禁煙挑戦は、全体で21.7%、本県は26.2%で全国6番目の高さだった。 一方、禁煙に挑戦した回答者の成功率は、全体で27.9%、本県では21.2%で、 全国37番目で苦戦。」 という内容でした。

たばこの煙は、喫煙により吸い口から直接吸い込まれる「主流煙」と、たばこの点火部 から立ち昇る「副流煙」に分けられますが、タバコの煙に含まれる各種有害物質の量は 主流煙よりも副流煙のほうが、数倍から数十倍も多いことがわかっているとのことです。 たとえば、ニコチンで2.6~3.3倍、窒素酸化物4~10倍、一酸化炭素2.5~4.7倍、各種 発がん物質100倍、ホルムアルデヒド0.1~50倍、アンモニア47~170倍となっています。 喫煙者のそばにいて、自分の意思とは無関係にたばこの煙を吸い込んで健康を損ねて しまうこと、喫煙者が加害者になってしまうことは、非常に残念なことです。 喫煙男性の妻の肺がん死亡率は、非喫煙男性の妻より明らかに高く、夫の喫煙量と ともに高くなることが知られているとのこと。 また、子供の体内に入るニコチンは、親が全く吸わない場合を1とすると、室内では 15倍、換気扇の下で3 2倍、戸を閉めた屋外で吸っても家に入れば2倍となると いわれています。

平成15年に「職場における喫煙対策のためのガイドライン」が厚生労働省から公表されて おり、「基本的な考え方」を、「喫煙による健康への影響に関する社会的関心が高まる中 で、

自らの意思とは関係なく、環境中のたばこの煙を吸入することによる非喫煙者の健康への 影響が報告されており、受動喫煙を防止するための労働衛生上の対策が求められている。

としています。職場での受動喫煙防止も重要な課題です。

本メルマガの情報欄にも記載しましたが、受動喫煙防止対策に関する各種支援事業もあり

http://www.mhlw.go.jp/bunya/roudoukijun/jigyousya/kitsuenboushi/index.html(再掲)